



学校の庭の桜の はなもみじ



令和4年8月26日
千曲市立屋代小学校

No.6

春秋ごとに匂うなり

2学期

が、スタート 『一步一步成長できる84日間に』

登校日数84日間の2学期が始まりました。

元気いっぱいの子どもの声が響きます。久しぶりに会う子どもたちの姿は、ちょっぴり日焼けし、大きくたくましくなったように感じました。

しかし、新型コロナウイルスの感染が広がり警戒レベル6となっています。先日配布しました、千曲市教育委員会からの通知に基づき、学習内容や行事の形態などを考慮して可否判断を行い、感染防止に最大限留意しながら学習活動を継続していきたいと思ひます。1学期同様に、保護者の皆様のご理解とご協力を、よろしくお願ひいたします。



2学期始業式 (8月22日)

22日(月)に、オンラインで2学期の始業式がおこなわれました。児童代表として5年生3名が、2学期のめあてを発表してくれました。学習のがんばりポイントや生活の心構えについての決意など、具体的な目標がたてられていました。全校のみんなも、2学期のめあて決めの参考になったと思ひます。

【5年松組 村岡友菜さん】(抜粋) 私が2学期がんばりたいことは二つあります。一つ目は、図工です。私は、図工が苦手なので、いつも適当でいいやと思って、すぐ終わらせてしまいます。2学期では絵を描くので、丁寧にやりたいです。二つ目は、発言です。わたしは、わかる問題だけに発言して、わからない問題に発言をしないことが多いです。「誰かが言ってくれる」と思って、弱い自分に負けてしまいます。2学期は、あっているか心配でも勇気をもって発言をしたいです。一番長い学期なので、いろいろなことに取り組んでいきたいです。

【5年竹組 市川皆人さん】(抜粋) 2学期にがんばりたいことは三つあります。一つ目は、整理整頓です。僕は整理整頓が大の苦手なで、1年生の頃から通知票で△をとっています。整理整頓をちゃんとやって、気持ちの良い2学期にしたいです。二つ目は、字のきれいさです。母に「字をきれいに書いて」と言われますが、きちんとやるのはその時だけなので、言われなくてもきれいに字を書きたいです。三つめは集中力です。ハンドボールの時、コーチに「走るときに集中力が足りない」と言われました。勉強をやっている時も、他のものが気になり集中ができないので、頑張って勉強など集中したいです。

【5年竹組 中澤うららさん】(抜粋) 2学期のめあては、四つあります。一つ目はマラソンです。走るのが得意ではないので、たくさん走ってマラソンカードを埋めて、大会でよい成績をとれるようにしたいです。二つ目は算数です。図形が得意なので、もっとできるようにしたいです。たくさん問題を解いていると計算ミスをしてしまうので、ミスをしないでいきたいです。三つめは自信です。自信をもって自分の意見を言えるようにしたいです。このように、私には長所も短所もあります。それを生かして楽しく学校生活を送りたいと思ひます。四つ目は音楽会です。今年金管があります。金管も学年の発表もがんばりたいです。

< 校長先生のお話 >

無事に30日間の夏休みを終え、一回り大きくなって屋代小学校に帰ってきた全校のみなさん、お帰りなさい。みなさんが元気に登校してくれて、大変うれしく思います。きっとお土産話がたくさんあるでしょう。ぜひ、お友達や先生にお話してください。

夏休みの当番活動、畑や花壇の水あげ・ウサギのえさあげなどたくさんのお友達がきました。ありがとうございました。

さて、写真を見せますので何の写真か当ててください。どうでしょう？ そうです、カタツムリです。次に、この像を見たことはありませんか？毎年、8月9日にテレビで見ることでもあります。長崎県平和公園の平和祈念像です。

今から70年以上昔8月9日、日本はアメリカなどの連合軍と戦争をしていました、太平洋戦争、または第二次世界大戦といいます。そのアメリカ軍によって長崎に原子爆弾が落とされました。

その3日前には、広島に原子爆弾が落とされています。どちらの町も壊滅しました。爆発による火・爆風・放射能でそれはひどいことになってしまいました。長崎では15万人もの人がなくなりました。生き残った人も、見るも無惨な状態となり、被爆して体中が痛くなり大変な苦しみが続くこととなります。

そこで、10年後に、原子爆弾の犠牲者の冥福を祈り、平和を祈るためにこの平和祈念像が建てられました。像の高さは10メートル近くあります。(実際は9.6m) 天を指す右手は「原爆のこわさ(長崎の過去)」を、水平にのばした左手は「平和(長崎の未来)」を示し、軽く閉じた瞼は戦争犠牲者の冥福を祈っている。意味を知って見ると、心に重く響く像となっています。

つくった人の名は、北村 西望(きたむら せいぼう)といいます。

日本を代表する彫刻家です。

(1884~1987 明治17~昭和62 没 満102歳)

北村西望という人は、ライバルが次々と賞を受賞するのに8年間も賞が取れず、彫刻家をやめようと思ったこともあったそうです。

そんな北村西望さんですが、長崎県生まれであり、技能もあったので、長崎の平和祈念像をつくることを頼まれました。もうじき像ができあがりそうなある日、西望さんは足下に2cm程の大きさの「かたつむり」を見つけました。翌朝また像の点検に行ってみると、昨日見た「かたつむり」が10センチもある像の頂上にまであがっていたのです。「かたつむりの歩み」のすごさに感動した西望さんは、自分のそれまでの人生と重ねて、俳句を作りました。

これがとってもいい俳句なのでみんなに紹介しますから、ぜひ覚えてください。

「たゆまざる 歩み恐ろし かたつむり」

たゆまざる…とだえることがない、なまけない

恐ろし…おどろくべきである、たいしたものである、えらい。

なのでこの俳句の意味は「カタツムリがなまけないで、ゆっくりではあるが、一歩ずつ歩き続け頂上まで歩いたのは、たいしたものだ!」という意味です。

句を読んだ北村西望さんは「私は天才ではない。他人が5年でやることを10年かけてでもやる。いい仕事をするために長生きするんです。」と語っています。実際、西望さんは102歳まで生きました。

やがて、北村西望さんは、文化勲章や紫綬褒章(しじゅほうしょう)という賞を国からもらっています。

ぜひこの素敵な句を覚えて欲しいなと思います。カタツムリのように小さな一歩でも続けていく事で大きな結果になるんだ。夢をかなえ事ができるんだよと言う、努力の言葉に聞こえます。

「たゆまざる 歩み恐ろし かたつむり」

今日から始まる2学期は84日間と長いです。やる事が山ほどあります。

負けないで、一つ一つ、一歩一歩、一日一日を大切に、「ゆっくりだけど、かたつむりの歩みのごとく、たゆまざる歩みを続けて」

二度とない2学期を、実りあるものにしてしましましょう。

